



綴プロジェクト作品 うめやなぎにゆうきんずぶすま 梅・柳に遊禽図襖  
狩野山楽・山雪筆 寄贈先：臨濟宗妙心寺派 天球院 原本所蔵：臨濟宗妙心寺派 天球院

### 春へと躍動する老梅。

妙心寺・天球院、通称「梅の間」と呼ばれる部屋に、独特な存在感を放つ老梅。太い幹を上へ下へと伸ばし、また金雲から枝が飛び出し、強く生命力が漲る。作者の山楽と山雪は、天球院の方丈のうち、「朝顔の間」、「虎の間」、「梅の間」にある障壁画全体で四季を表現しており、「梅・柳に遊禽図襖」は、梅と柳を主題にしながら、山鳥や花も描かれ、冬から春への移り変わりを色鮮やかに展開している。

天球院は、「梅・柳に遊禽図襖」を原則非公開として、劣化から守り、後世へと伝えてきました。それを高精細複製品に置き換えることで、より良い状態で保存を実現、一般公開も可能にしました。天球院の四〇〇年以上に渡る努力によって、守られてきた「梅・柳に遊禽図襖」。その美しさを後世へ残すことは、変わることはない日本のところを、伝えていきたいという願いが込められています。日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品35作品は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト  
global.canon/ja/tsuzuri  
でご覧いただけます。

公開予定

天球院方丈障壁画「梅・柳に遊禽図襖」は、毎年春・秋での特別公開を予定しております。

Canon

日本の美を継承していくために  
綴プロジェクト作品(高精細複製品)  
◆重要文化財◆  
『梅・柳に遊禽図襖』 狩野山楽・山雪筆

Vol.3

綴TSUZURI  
文化財未来継承プロジェクト